

クラウドファンディングサービス「エールレール」を開設 ～プロジェクトの起案などを手厚くサポートし、近鉄沿線の活性化を目指します～

株式会社アド近鉄は、2021年3月29日（月）から購入型クラウドファンディングサービス「エールレール」を開始いたします。「エールレール」は“近鉄沿線を応援する”をコンセプトとし、近鉄沿線で課題を抱えるクライアントへのプロジェクトの企画から、返礼品プランの設計、プロジェクトページの公開作業までを手厚くサポートするサービスです。また、駅のデジタルサイネージやポスターなどの交通広告やWeb広告を通してプロジェクトをPRできる点も強みです。

第一弾プロジェクトとして、奈良公園の鹿と環境を守る「もっとずっと鹿紙」プロジェクトおよび四天王寺の聖徳太子千四百年御聖忌を記念した「結縁綱（けちえんづな）」プロジェクトを支援します。

当社は今後も沿線が抱える社会問題の解決やテストマーケティング・販路開拓による地場産業の活性化、沿線に数多くある寺社仏閣を守るための資金調達等、沿線の活性化につながる様々なプロジェクトをサポートします。詳細は別紙のとおりです。



【エールレール ロゴマーク】



【エールレール キービジュアル】

「みんなが沿線を応援する」イメージを、カラフルなイラストが特徴的なイラストレーター「絵描き屋 nozawa」さんによる書き起こしイラストで表現しています。

■購入型クラウドファンディングサービス概要

サービス名称：近鉄沿線応援クラウドファンディング「エールレール」

提供内容：購入型クラウドファンディング

事業会社：株式会社アド近鉄

開始時期：2021年3月29日（月）

サイト URL：<https://yell-rail.en-jine.com/>

■第一弾プロジェクトの概要

1. 奈良公園の鹿を、ビニールごみから救いたい！
「もっとずっと鹿紙」プロジェクト



(1) 起案者

奈良しかできない鹿と環境を守るプロジェクト
(株式会社ナカムラ、株式会社ならイズム、文洋堂)

(2) クラウドファンディング開始日

2021年3月29日(月)

(3) プロジェクトの趣旨

奈良の象徴であり「神の使い」とも言われる奈良公園の鹿たちは今、私たちが日々の生活で当たり前に使っているビニール袋の誤飲が原因で命を失っています。この鹿たちを助けるとともに奈良の環境問題対策として、鹿が食べても害の少ない材料で作られた「鹿紙」を普及するためのプロジェクトです。

(4) 鹿紙について

鹿が誤って食べてしまっても、鹿への負担が少ない材料で作られた紙が「鹿紙」です。再生パルプに米ぬかを配合しており、これには奈良県産の米「ヒノヒカリ」を精米するときに出る米ぬかや、地元のぬか床製造メーカー様よりご協力をいただいたぬかも使用しております。ぬかを配合したのは、鹿に与える影響を減らすと同時に、循環型社会を目指す目的もあります。また、米ぬかの色味をあえて残すことで、穏やかな情景の奈良にぴったりな優しくナチュラルな風合いに仕上げられています。



【鹿紙】

(5) 返礼品について

奈良特産の麻蚊帳生地のおきんやかばん、和包丁などを鹿紙袋に入れてお届けします。

(6) ご支援いただいた資金の使い道

ご支援いただいた資金は、鹿紙の普及活動に活用させていただきます。現状鹿紙は、製造過程の関係や資金が足りず量産が難しい関係で、一般的に使用されている袋に比べると約6倍近い販売価格になっています。新型コロナの影響で観光客が減少して苦しい思いをされている、奈良公園周辺の店舗様に導入していただくには厳しい価格でしかご提供できておらず、普及するためには量産することで低コスト化する必要があります。今回ご支援いただいた資金を元手に、奈良公園周辺の店舗様に低コストでご提供し、鹿紙袋の普及を目指します。

2. 【大阪・四天王寺】聖徳太子千四百年御聖忌記念
100年後の未来へ、みんなでつなごう！

結縁綱(けちえんづな)プロジェクト



(1) 起案者

和宗総本山 四天王寺

(2) クラウドファンディング開始日

2021年4月下旬～(予定)

(3) プロジェクトの趣旨

四天王寺では聖徳太子がご薨去されてから1400年という節目の年を迎えるにあたり、令和3年10月から来年の4月まで「聖徳太子千四百年御聖忌(ごせいぎ)」を執り行います。今から100年前、明治36年(1903)に行われた聖徳太子千三百年御聖忌の時、聖霊院太子殿と金堂と五重塔と、そして参拝者の皆様とを結ぶ結縁の綱が境内各お堂間の空中に張り巡らされたと伝わります。それから100年を経た現代の四天王寺に於いても、実に100年ぶりとなりますが、参加参拝される皆様との縁を結ぶ五色の綱と柱を再び復活させる事業を行います。この事業の実現のためには是非とも皆様のご支援を必要としており、クラウドファンディングの実施に至りました。

以上